

KODAK
LICENSED PRODUCT

© The Tiffen Company, 2000

KODAK Color Control Patches



五傳
林

4913
~7



7
4313

4313

霞亭文庫

依年先陣

作者

と松門なる

神かみ氏うぢををししららるる聖ひ王わうはは流りゅうるるもも鵬ほう鳥てう

らら子し年ねんふふ一いつ度たび羽うらら川がわとと南なん真ま一いつ

ひひわわききんんののんんららいいとと海うみががくくししとと事こと

教しやう使しよよららとと良らう将しやうとと行ぎやうののししららるるとと世よ対たいよよ

わわららししとと源げん平へいはは流りゅうれれとと中ちゆうららららととああややぬぬ

扱あとと平へい家けのの一いつ門もん福ふく東とうのの系けい成せいせせああららるる事こと

九く部ぶはは曹そう子し家け治ちよよはは首しゆのの内ない裏りとと流りゅうるる

よびつゝも續波の舟は海もゆゑに
とどろきなり軍に利し
忠義通かき津の成基とあり
かんとていじりと門懸付あり
生らも維風法経る入水
中
次高き上総のゆるき藤天下
軍せむも云程そのも小松
中
中
中

同く少将有威と大将軍に
吾松よまわつて
ゆ陣ともは源氏の大將
万全なればか
後戸も陣とも
わらひ大み斬成
せあつてい
つづつに目教

ものごとくしなれどもいかになむとてあ
よ海女の昔もたつこもや海女の軍音た
徳病をいかにいかにいかにいかにいかに
くろ海女といかにいかにいかにいかに
よむいかにいかにいかにいかにいかに
のいかにいかにいかにいかにいかに
辱とせんといかにいかにいかにいかに
むいかにいかにいかにいかにいかに

あかきいよふな海女の川に海に
んいかにいかにいかにいかにいかに
るいかにいかにいかにいかにいかに
たり平家いかにいかにいかにいかに
よむ海女いかにいかにいかにいかに
れ方のいかにいかにいかにいかに
極いかにいかにいかにいかにいかに
いかにいかにいかにいかにいかに

まゝに教へしむるにまじりてしむるは
兄は高田定繼八牧を我より奪ひて中津
高田の法に之陣社を築き其の法
よ今日平家軍を御成すに若し
夫れ和守のんはなま一命と録親の
の死をよけしめし陣一敵かたは成
かまされしむるにまじりてしむるは
社力とすのりてしむるにまじりてしむるは

中に飛入るるにまじりてしむるは
ぬと社力とすのりてしむるにまじりてしむるは
海とすのりてしむるにまじりてしむるは
しあはれにまじりてしむるにまじりてしむるは
あはれにまじりてしむるにまじりてしむるは
總石番とすのりてしむるにまじりてしむるは
わはれにまじりてしむるにまじりてしむるは
あはれにまじりてしむるにまじりてしむるは

何者そこの女とて海にたのめや我ら
南浦の塩焼をまきしもの娘婿ある
妹婿もくはあての今乱世は事なる
堂あるは夫とまきしと女はくはま
情も作らまきし廣徳と名んやまきし
のし海のおもむきなりしと物まきし
とこのちかきおとこをたのめは後と立
たしおとこのちかきおとこをたのめは

まきしとくはまきしと物まきし
おとこのちかきおとこをたのめは
とこのちかきおとこをたのめは
難おとこのちかきおとこをたのめは
とこのちかきおとこをたのめは
とこのちかきおとこをたのめは
とこのちかきおとこをたのめは
とこのちかきおとこをたのめは
とこのちかきおとこをたのめは
とこのちかきおとこをたのめは

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in a dense, flowing style with many small annotations and flourishes. The characters are dark and the paper shows signs of age and wear.

Handwritten text in a cursive script, continuing from the previous page. The text is dense and features numerous small annotations and decorative elements. The script is highly stylized and characteristic of a specific historical period.

あつち申はし作本なる盛徳なる人陳徳
しんし徳者あまきとて多入給のり列御
らるるはまはるや色紙の菊に在りま平家の
礼よりわらわの松の相傳事祈禱を建次
の私伝田押紙寺社盜賊おとしおぼ
うらまひめん徳代の紙権婦におもひ
うけあつちり紙奏とま安金の言
物とておぼしめしおぼしめし指
おぼしめしおぼしめしおぼしめし

たふす抄あまの紙を案色久味可
道多能田徳とて八都方より百平余
町の紙紙と音より立わらとて平家の
丸徳也とてとて二町よりと入
とて紙へは本徳信の紙家者
とてとて思徳の徳の徳の徳の徳
教の商へりて授給の利徳とて
まへに徳の徳の徳の徳の徳の徳

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in a dark ink on aged paper. It consists of approximately 12 lines of text, with some characters appearing to be in a different script or dialect. The text is somewhat faded and difficult to decipher, but it appears to be a continuous passage of writing.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in a dark ink on aged paper. It consists of approximately 12 lines of text, with some characters appearing to be in a different script or dialect. The text is somewhat faded and difficult to decipher, but it appears to be a continuous passage of writing.

せきしひ始とて初めの婿男万葉の
しきと月吉日の儀式より一は
九殿の珠玉と續のひらりたれ
田島の子孫と総の善代の歴々威儀と
是を燈らそと信の作と本を
高橋のつとめと信の作と本を
とみかたとのあそぶと本を
おぼしめしと信の作と本を

はしと信の作と本を
信の作と本を
とみかたとのあそぶと本を
おぼしめしと信の作と本を
はしと信の作と本を
信の作と本を
とみかたとのあそぶと本を
おぼしめしと信の作と本を
はしと信の作と本を
信の作と本を
とみかたとのあそぶと本を
おぼしめしと信の作と本を

南無一人役らるるは娘と教家しむる村
此を并始す又の女らに流美も有と嫁めく
あつりやうえんわむと頼持おぼえりし娘
武家よ美白身女のらん事束付の御目
ろ夫は加よるあむあけやせあひ
客恋し出承はく物け美白屋と御海
流しとてあしん小桑あむ時政の院と
して物とさむと押らりあむとめまうが屋

あつて是美白敷れ身女あむ生れあむあ
むは是西平井茶物あむ西平井女あむと
玄徳猫の妹背とて事とすわわ御軍は
るうひじしとそかろる頼持有るむと事な
むとむれあ物と頼持らるる御書とて今も愛
改めまむ是地よあむと事今とあむ是れ
ころと美下れとわはしと下れはるふ
してと時政とあむとわはれ頼持有る

りさうふらふらとくわだつり美白我の將軍也
くし合つてしるま後改せば息女とすり物
時よき後よき一様と伝ふる子業分上様
今いそそろくは後めくふらどもかてもめ大
事そめんそめおごつておひよひあひしとら
とあつねやうれおんそめか風あつらふとが
さういしうしうきうらよと今額よあせり首
とあつねやうれおんそめか風あつらふとが

らさうふらふらとくわだつり美白我の將軍也
くし合つてしるま後改せば息女とすり物
時よき後よき一様と伝ふる子業分上様
今いそそろくは後めくふらどもかてもめ大
事そめんそめおごつておひよひあひしとら
とあつねやうれおんそめか風あつらふとが
さういしうしうきうらよと今額よあせり首
とあつねやうれおんそめか風あつらふとが

Handwritten text in Arabic script, likely a religious or historical document. The text is written in a cursive style and spans the entire page. It contains several lines of text, with some characters appearing to be in a different script or dialect, possibly indicating a specific region or community. The text is dense and fills the page from top to bottom.

Handwritten text in Arabic script, continuing from the previous page. The text is written in a cursive style and spans the entire page. It contains several lines of text, with some characters appearing to be in a different script or dialect, possibly indicating a specific region or community. The text is dense and fills the page from top to bottom.

Handwritten text in a cursive script, likely a continuation of a letter or document. The text is written in a fluid, connected style across ten lines.

第四

Handwritten text in a cursive script, likely a continuation of a letter or document. The text is written in a fluid, connected style across ten lines. The characters are dense and difficult to decipher without a key.

神といはれぬのにおかしくいふとあはれに思はれ
たふともなきらふとてたのりかひらふと
一念に立ちまをりて後らひの思はれなき
根籍のなまぢのあはれに思はれなき思
ふあはれとてよとて思はれなき思はれ
らふとて思はれなき思はれなき思はれ
よとて思はれなき思はれなき思はれ
海東のまよふ思はれなき思はれなき思はれ

対人といはれぬのにおかしくいふとあはれに思はれ
たふともなきらふとてたのりかひらふと
一念に立ちまをりて後らひの思はれなき
根籍のなまぢのあはれに思はれなき思
ふあはれとてよとて思はれなき思はれ
らふとて思はれなき思はれなき思はれ
よとて思はれなき思はれなき思はれ
海東のまよふ思はれなき思はれなき思はれ

先^まづ先^まを先^まの^{こゝろ}に^まけ^てと^し後^ごせ^らる^る
危^{あや}し^きな^りに^まけ^てと^し後^ごせ^らる^る
此^{こゝ}に^まけ^てと^し後^ごせ^らる^る
我^{われ}に^まけ^てと^し後^ごせ^らる^る
他^たに^まけ^てと^し後^ごせ^らる^る
早^{はや}に^まけ^てと^し後^ごせ^らる^る
悔^{くわい}の^{こゝろ}に^まけ^てと^し後^ごせ^らる^る

吾^{われ}に^まけ^てと^し後^ごせ^らる^る
其^{その}の^{こゝろ}に^まけ^てと^し後^ごせ^らる^る
早^{はや}に^まけ^てと^し後^ごせ^らる^る
悔^{くわい}の^{こゝろ}に^まけ^てと^し後^ごせ^らる^る

弟^{あに}又^{また}

作^{つく}ら^るる^る者^{もの}は^まけ^てと^し後^ごせ^らる^る
悔^{くわい}の^{こゝろ}に^まけ^てと^し後^ごせ^らる^る
と^し後^ごせ^らる^る

いづれにてもいふにたゞしき事なり
かゝる事ありて後世に傳へるは
と約者一人にありて七十日とせられ
毎に其をみる御進念の御心
傳へて入りて多分とせられ
因にいと入る御心
親約のみにてありて御心
とて是れ女衆の御心なり

と約者一人にありて七十日とせられ
毎に其をみる御進念の御心
傳へて入りて多分とせられ
因にいと入る御心
親約のみにてありて御心
とて是れ女衆の御心なり

人よ娘とてうらむも見物よと徳合わ入と
約め知らぬとてとて程もわも唐唐宗
物よ向ひ母唐唐とていつは事勢に信
りてと身唐唐とていつは事勢に信
用いさ差毛も中と或ま如件せと
と中とわくたといつと身唐唐と
何とてからせぬといつと身唐唐と
た身唐唐とていつは事勢に信

よあつてわくたといつと身唐唐と
た身唐唐とていつは事勢に信
何とてからせぬといつと身唐唐と
と中とわくたといつと身唐唐と
用いさ差毛も中と或ま如件せと
りてと身唐唐とていつは事勢に信
物よ向ひ母唐唐とていつは事勢に信

比尤もそ同くく小條をてぬる廣徳入
信病者れ氣多老なきまきれ名彩二門の恥辱共
今速よ切後せな時改らさあて致んとは
くせよああか、廉相子貴沃心そうた
一門の後と足能ふ分たり、室もあむ事りま
まも世とあるや宮總子と孫とす
らも後より細頸もも満と打あ
長と動られ代美果れ中とと打るて

ゆり、源氏物語昌女、昌子、秋、美果、可、藏
先とくぬらわけりともあら

右此年省依少子と密ら至附秘密
為最自逐授合とと再版と也

竹本義太夫

貞享三年 丙寅 七月吉日

京二條通寺町あへ舟小例
大坂より藤橋場あへくおん世

山本九善房板行

